

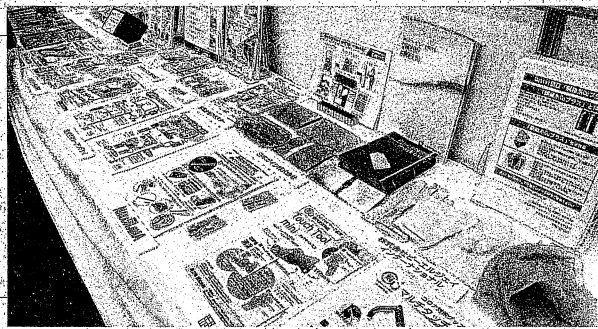
銅の抗菌性で新型コロナウイルスに立ち向かう

新型コロナウイルスの感染拡大は「マン・ショック」や東日本大震災の時に来の打撃を日本経済与えたばかりでなく、生活のあらゆる常識をも一変させた。「接触」という言葉には気も留めなかった所作もその一つだ。新型コロナウイルスへの接触感染リスクを心配するあまり「手すり」「ボタン」「つり革」など身近な物に触れるのもためらわれるようになった。そのような状況のなか、一つのキーワードが新型コロナウイルスの感染対策で注目を集めている。銅の抗菌性だ。全国各地の企業、大学が既存の枠組みを超えて銅の抗菌性を生かした新たな製品開発、販売に取り組み始めている。

市場

プラスチック、フィルムなど金属以外の業界関係者からも問い合わせがあった。内容は製品化に向けた具体的な話で、市場拡大に今後期待できるものだと日本銅センターの和田正彦事務局長は高機能金属展での言葉を磨きあげて話す。2020年12月に開催された高機能金属展で、銅の抗菌性をテーマに出展したところ例年にならぬ集客を実現した。超抗菌性を誇る日本銅センターの「CUS-TAR」認証を取得した企業数も47社と前年から20社近く増加した。

拡大の兆し見せる

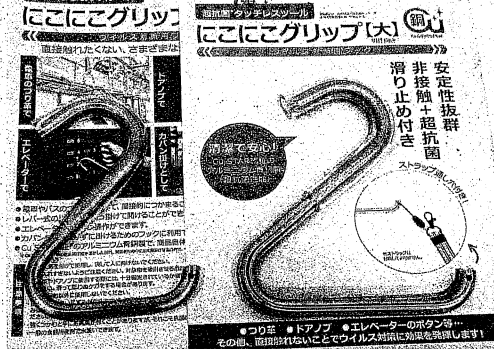


日本銅センターが出品した「CUS-TAR」は銅を使った抗菌製品が多く並んだ。

生研研究所(NTT)らの実験効果があると示唆する実験結果を発表した。

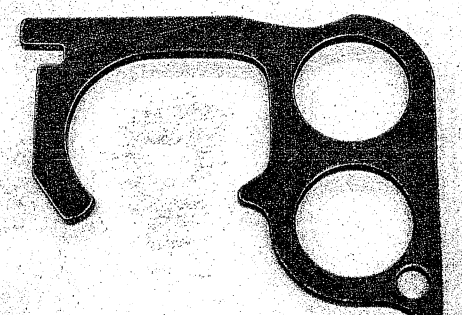
(新保 貴史)

メーカー！伸銅品問屋



ネットワーク駆使し開発

自社の銅加工技術を生かして新型コロナウイルスの感染対策を提案するメーカーが現れている。生活の安全に対して当社が何か貢献できるかとはいかた考え製品開発に取り組んだ」と話すのは特殊銅合金メーカー大和合金(本社「東京都板橋区」)の萩野源次郎社長。同社は白銅、パイプ加工のカイセ工業(本社「東京都町田市」)員瀬緑社長と協力して超抗菌タッチレスツール「ここにクリップ」を開発した。幅広の業種が影響を受け、銅の需要が減少する中だが、材料は独自開発のフルメタルも受注が減少した。一時は生産調整を余儀なくされる事態が続いていた。その中で萩野社長は「金属メーカーも受注が減少したため一時は生産調整を余儀なくされる事態が続いていた。その中で萩野社長は、一般消費者向けの事業はPR方法などで課題が残るものの、人々の衛生意識の高まりから「今後も銅加工製品の需要拡大に期待できる」と話す。今後は銅の存在が見直され、銅の需要が拡大する可能性がある。銅の存在が見直され、銅の需要が拡大する可能性がある。銅の存在が見直され、銅の需要が拡大する可能性がある。



伸銅品問屋が共同で開発販売したタッチレスツール

伸銅品問屋が共同で開発販売したタッチレスツール「ここにクリップ」は、安定性抜群、非接触・超抗菌、滑り止め付きの特性を備えている。銅の抗菌性を生かした製品を開発し、販売している。銅の抗菌性を生かした製品を開発し、販売している。銅の抗菌性を生かした製品を開発し、販売している。